

彼女に満たされた

この馬車こそ としお である

としおは 馬六頭に引きずられる
まま

背骨じみた

か細い道を駆ける 駆けている

その傍から 傍から

狸が飛びつく

襲い来る

金玉の皮をおっ広げ

としおの窓にへばりつく

としおの車輪を絡みとる

としおの脂肪を溶かす

悪性の液体を

分泌 ぶくぶく 泡立つ脂肪

としおは みるみる 萎んで

それでも猛然と

雪の中を

背骨じみた道を 駆ける

股ずれのせいで

半歩ずつしか歩けなかった

部屋を出るのさえ億劫がっていた

寝る時につける 呼吸を楽にする

ダイバーみたいなマスクを

男性雑誌の裏に 放置して

カビだらけにした

あのとしおが

駆ける

駆けている